

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 21 年 7 月 9 日 (2009.7.9)

【公開番号】特開 2005-257442 (P2005-257442A)
 【公開日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-037
 【出願番号】特願 2004-69026 (P2004-69026)
 【国際特許分類】

G 0 1 L 9/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 L 9/00 3 0 3 Q

【手続補正書】
 【提出日】平成 21 年 5 月 22 日 (2009.5.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 0 5 】

そこで、近年では、電磁波によって生じるノイズに対する耐性、すなわちノイズ耐性を向上させた圧力センサが考案されている（例えば、特許文献 1 の図 10 を参照）。図 6 は、従来の圧力センサの断面概略図である。以下、圧力センサの構造について、図を参照して説明する。図 6 に示す圧力センサは、ハウジング J 1 と、ステム J 2 と、ネジ部品 J 3 と、基板 J 4 と、ピン部品 J 5 と、貫通コンデンサ J 6 と、ターミナル部品 J 7 と、コネクタケース J 8 とを備えて構成されている。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 1 1 】

上記構成を有する圧力センサでは、各ターミナル J 7 1 からノイズが入力すると、ノイズが貫通コンデンサ J 6 を介してハウジング J 1 に出力されるようになっている。このようにして、圧力センサの基板内の回路にノイズを入力させないようにすることができ、圧力センサにおけるノイズ耐性を確保することができる。したがって、圧力センサに接続された配線を伝わって入力するノイズによって圧力センサが不具合を生じることなく機能するようになっている。

【特許文献 1】特開 2 0 0 1 - 2 6 4 2 0 3 号公報